

アジアにおける金融協力

財務省国際局地域協力課長 中村 修

アジア危機を契機に本格化したアジアにおける金融協力は、ASEAN+3 財務大臣プロセスの中での議論を通じ、ここ 10 余年、着実に進化してきている。

今年の 5 月 3 日にマニラで開催された ASEAN+3 財務大臣・中央銀行総裁会議（今回初めて中央銀行総裁が参加）においては、チェンマイ・イニシアティブ（CMIM）の強化策、本強化策に対応した「アセアン+3 マクロ経済リサーチオフィス」（AMRO）の組織強化、アジア債券市場イニシアティブ（ABMI）のニュー・ロードマップ・プラスの作成に合意するなど大きな節目を迎えた。

チェンマイ・イニシアティブの強化策については、近年のグローバルな金融危機・不安定な欧州情勢を踏まえ、抜本的な強化策が検討され、全体規模の倍増（現在の 1,200 億ドルから 2,400 億ドルへ倍増）、危機予防機能の導入、IMF プログラムの支援がない場合でも支援可能な部分を最大 20%から 30%への引き上げ（さらには AMRO の機能強化を前提に 2014 年には 40%に引き上げ）が合意された。

アジア債券市場イニシアティブ（ABMI）については、2003 年のイニシアティブ開始以来、アジアの貯蓄をアジアの投資に活用するための各種取組みが実施されてきたが（最近では、アジア・ボンド・オンライン、信用保証・投資ファシリティの設立などの具体的成果が挙げられる）、こうした取組みをより具体的な成果につなげるため、今般、3つの柱、9項目から成るニュー・ロードマップ・プラスに合意した。

アジアにおける地域金融協力は各国当局間の議論のみならず、民間市場関係者の中での議論においても着実な進展が見られる。一昨年秋、ASEAN+3 のクロスボーダー債券取引の拡大をめざし、市場慣行の標準化や規制の調和化を議論するための共通の場として、民間を中心に ASEAN+3 債券市場フォーラム（ABMF）が設置された。規制関係と債券の決済プロセスの 2つのフォーラムにおいて議論が行われており、今春、第 1 フェーズの成果として各国債券市場に関する詳細な報告書（ASEAN+3 債券市場ガイド）が公開された。今後の第 2 フェーズの作業としては、東京プロボンド市場を参考として ASEAN+3 共通のプロ向けの発行プログラム形成を具体的に議論している。

本報告では、こうした地域金融協力の進展を跡付けるとともに、グローバル経済の中に深く組み込まれる中で世界の成長エンジンとなっているアジア経済における今後の金融協力のあり方やわが国の再生戦略との関係についても考察を行いたい。